

## 核融合科学研究所創立30周年記念市民学術講演会を開催しました

核融合科学研究所は、7月15日（月・祝）にバロー文化ホール（岐阜県多治見市）において、研究所創立30周年記念事業として市民学術講演会を開催し、多治見市、土岐市、瑞浪市を中心に約660名の方にご参加いただきました。

はじめに竹入所長から、「研究所は平成元年5月29日に発足してから、本年5月に節目の30周年を迎えました。本研究所に併設されている総合研究大学院大学の核融合科学専攻は、講師としてお招きした矢野創助教が所属しているJAXA宇宙科学研究所を拠点とする宇宙科学専攻と同じ物理科学研究科に属し、日頃より協力して教育活動を行っています。また、講演に登場する「はやぶさ2」に搭載されているイオンエンジンは、マイクロ波加熱によりプラズマを生成し、ビーム技術によってエンジンを駆動しており、核融合研究と密接な関連があります。」との挨拶がありました。

続いて矢野助教から、「イトカワとリュウグウー新旧はやぶさ探査機が見た小惑星の姿」と題した講演があり、太陽系の天体についての紹介から始まり、「なぜ小惑星探査をするのか」、「太陽系の起源を調べるにはどうしたらいいのか」について、味噌ラーメンの作り方に例えた説明がありました。また、「はやぶさ」が到達したイトカワ、そして今回「はやぶさ2」が着陸に成功したリュウグウについても、着陸数秒前からの連続写真に基づく観測成果の紹介がありました。



矢野創 JAXA 宇宙科学研究所助教の講演

## 市民説明会を開催しました

核融合科学研究所は、土岐市（6月26日～7月12日）、多治見市（7月16日～7月31日）及び瑞浪市（8月6日）において、「核融合研究の進展と大型ヘリカル装置（LHD）の研究成果」について、市民説明会を開催しました。

説明会には土岐市7会場140名、多治見市15会場108名、瑞浪市1会場11名の方にご参加をいただき、LHDを用いたプラズマ研究の内容と、2017年3月から開始した重水素ガスを用いた実験（重水素実験）第2年次の実施結果、本年10月上旬から開始予定の重水素実験第3年次の準備状況及び安全管理や情報公開の体制等について、研究所から説明を行いました。

説明会では地震に対する備えに関する質問のほか、「核融合発電が実現するまでのスケジュールはどうなっていますか？」など、核融合研究の今後について期待を寄せる質問も多くいただきました。



下石公民館で説明を行う竹入所長



大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所 発行

NIFS NEWS

No.249

2019年8,9月号

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6

TEL : 0572-58-2222(代) FAX : 0572-58-2601

URL : <http://www.nifs.ac.jp/>

E-mail : [nifs-news@nifs.ac.jp](mailto:nifs-news@nifs.ac.jp)

※過去のニュースはホームページにてご覧いただけます。

複写される  
方へ

本紙に掲載された著作物を複写したい方は(社)日本複写権センターと包括複写特許契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F

TEL:03-3475-5618 FAX:03-3475-5619 E-mail:info@jaacc.jp 著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本研究所へご連絡ください。